



African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学
現代アフリカ地域研究センター
2020年（令和2年）度活動報告

目 次

- 1 [概要](#)
- 2 [活動実績](#)
 - 2.1 [研究活動](#)
 - 2.2 [教育活動](#)
 - a. [センター教員による本学教育への貢献](#)
 - b. [招へい研究者による授業](#)
 - c. [日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」](#)
 - d. [学生支援](#)
 - (ア) [調査支援](#)
 - (イ) [シンポジウム・セミナーでの報告機会提供](#)
 - 2.3 [シンポジウム・セミナー](#)
 - a. [ガーナ大学との共同セミナー](#)
 - b. [ASCセミナー](#)
 - c. [その他、協力イベント](#)
 - (ア) [BLMセミナー](#)
 - (イ) [アフリカンウィークス（2020年11月30日～12月18日）](#)
 - (ウ) [映像人類学セミナー](#)
 - 2.4 [人的交流](#)
 - a. [研究者招へい](#)
 - b. [留学生招致活動](#)
 - (ア) [クラウドファンディング](#)
 - (イ) [世界展開力事業](#)
 - 2.5 [ネットワーキング](#)
 - 2.6 [広報活動](#)

- a. [センター公式ウェブサイト](#)
 - b. [SNS（フェイスブック、ツイッター）](#)
 - c. [メーリングリスト](#)
 - d. [センターパンフレットの改訂](#)
- 2.7 [来年度に向けた活動](#)
- a. [ガーナ大学との共同セミナー](#)
 - b. [5周年記念シンポジウム](#)
- 3 [センターの人員構成](#)
- 4 [活動記録](#)
- 4.1 [ASC セミナー一覧](#)
 - 4.2 [主催・協力イベント一覧](#)
 - 4.3 [主要来訪者一覧](#)
- 5 [センター教員・研究員の業績](#)
- 5.1 [研究活動](#)
 - a. [著作（単著・共著・編著）](#)
 - b. [論文](#)
 - c. [エッセイ、その他](#)
 - d. [学会・シンポジウム](#)
 - e. [一般向け講演](#)
 - f. [企画・運営・事務局等](#)
 - 5.2 [教育活動](#)
 - a. [本学内における今年度担当授業](#)
 - b. [本学以外における非常勤講師活動](#)
 - 5.3 [対外活動、社会貢献](#)
 - a. [外部機関からの委託業務](#)
 - b. [マスメディアからの取材、問い合わせへの対応](#)
 - 5.4 [外部資金の獲得](#)
 - a. [代表者](#)
 - b. [分担金](#)

別添

ASC セミナー、協力イベントチラシ一覧

1 概要

現代アフリカ地域研究センター発足 4 年目にあたる 2020 年度は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のために、活動に厳しい制約を受けた。予定していた事業の中止や延期を余儀なくされたという意味では停滞であったが、反面新たな展開もあった。その意味では、次につながる 1 年だったと言えるだろう。

コロナ禍の打撃は甚大であった。2020 年度にはドゥアラ大学 (カメルーン) およびリーズ大学 (英国) から 2 名のアフリカ研究者の招へいを予定していたが、いずれも延期となった。現在、2021 年度の招へいに向けて準備を進めているところである。招へい研究者の訪日が中止になったことで、本学学生向けに学部と大学院で予定していた講義も中止となった。2020 年 2 月にプロテスタント人文・社会科学大学 (PIASS: ルワンダ) で開催した共同セミナーの続編として、9 月にガーナ大学で予定していた共同セミナーも延期された。2021 年度の開催を目指しているが、COVID-19 の状況次第と言わざるを得ない。留学生の交流も大幅に制約された。留学途中で帰国を余儀なくされた日本人学生も多かったが、多くのアフリカ諸国が国境を封鎖したため、アフリカ人学生の日本への渡航も制限された。

厳しい状況のなかで、何とか実施できた事業もある。クラウドファンディングはそのひとつである。クラウドファンディングは 2018 年度に続き 2 回目の挑戦であったが、「第 2 弾! 紛争を乗り越えて。ルワンダの大学から留学生を招こう」と題して、第 1 回目の緊急事態宣言発出中である 4 月 15 日に開始した。結果的に、5 月 31 日までの期間中に、目標を大きく上回る 142 万 5 千円を集めることに成功し、2 名の留学生を PIASS から招致することができた。クラウドファンディングは、PIASS との間で双方向の学生交流を継続的に実施する狙いで 2018 年度に開始した経緯があり、今回の成功によってそれが実現できたことを喜ばしく思っている。2 人の学生は、コロナ禍のために出発が遅れたものの、11 月末に来日を果たした。

ASC セミナーについても、コロナ禍のために大学での開催は断念したが、オンラインで 9 回開催することができた。昨年よりは開催回数を減らしたが、次に述べるように、社会的には大きなインパクトを与えられたと考えている。

コロナ禍によって活動が大きく制約された一方で、悪戦苦闘するなかで新たな可能性が見えてきた 1 年であった。オンライン・セミナーはその代表である。2020 年度最初の ASC セミナーは 6 月 5 日のことであり、ルワンダ、南アフリカ、ノルウェーと日本を Zoom でつないでコロナ禍における各地の状況を互いに報告するというものだった。海外とリアルタイムで結んで話を聞くというオンラインの利点を活かしたセミナーが開催できたことは、高く評価できる。その他にも、カメルーンや南アフリカから報告してもらったセミナーを開催することができた。オンライン・セミナーのもう一つのメリットは、参加しやすいことである。昨年までと比較してセミナー 1 回あたりの参加人数は大幅に増加し、年間に 9 回実施したセミナーの総視聴者数は約 1,000 人に達した。

新たに見えてきた可能性としてもう一つ指摘したいのは、アフリカ人留学生の増加である。当センターの発足以来、クラウドファンディングなど様々な形でアフリカからの留学生を増やす取

り組みを続けてきたが、今年度になって、以前交換留学でやってきた学生 2 名が、国費留学生として本学博士前期課程の Peace and Conflict Studies (PCS) コースに入学した。PCS コースには従来からアフリカ人学生がいたが、新たに国費留学生招致枠を獲得できたこともあって、アフリカからの留学生がさらに増加することとなった。さらに、博士後期課程（共同サステナビリティ研究専攻）においても、国際協力機構（JICA）の支援を得て、アフリカ出身者 2 名が入学した。2020 年 3 月現在、本学の博士前期・後期課程で 10 名以上のアフリカ人留学生が学んでいる。

アフリカからの留学生は、2020 年度に新たに採択された、大学の世界展開力強化事業（アフリカ）によって、さらに増加することが見込まれる。京都大学との共同申請によって採択された本事業を通じて、2024 年度までの期間中、5 つの協定校（プレトリア大学、ステレンボッシュ大学、ガーナ大学、ザンビア大学、PIASS）との間で、学生の相互交流を進めることになる。博士課程のアフリカ人留学生は、研究・教育両面で、私たちに大きな刺激を与えてくれるだろう。当センターとしても、アフリカ研究に関心を持つ学生たちが交流し、相互に刺激を与える機会を作りたいと考えている。

2021 年度は、当センターが設立されてから 5 年目にあたり、シンポジウムも予定されている。ネットワークの構築を通じてアフリカ研究と教育との好循環を生み出すという、センターの活動は着実に成果を出しつつある。この好循環をさらに加速させるよう努力したい。

2 活動実績

2.1 研究活動

現代アフリカ地域研究センター・センター教員の 2020 年度活動実績は、下記 [5.1](#) に示すとおりである。なお、センターの刊行物として、ASC-TUFS Working Papers Vol.1 を発行した。従来、共同セミナーに提出されたペーパーなどをワーキングペーパーとして刊行してきたが、2020 年度よりこれを定期刊行物とし、編集委員会を設置して、原稿に対するチェック体制を強化することとした。編集委員会の構成は、次のとおりである。

編集委員長：武内進一

編集委員：出町一恵、村橋勲、村津蘭、中山裕美、大石高典、坂井真紀子

事務局：緑川奈津子

2.2 教育活動

a. センター教員による本学教育への貢献

本学専任教員としての通常の授業（下記 [5.2a](#) 参照）に加えて、次の教務を行った。

村橋・村津 国際社会学部において「アフリカ地域研究 2/B（アフリカの宗教とエスニシティ）」（秋学期 15 コマ・前半は村津が宗教を、後半は村橋がエスニシティを担当した）

武内 ①招へい教員の来日中止に伴い、国際社会学部において、秋学期に地域言語 A/専攻言語（英語 II-7）の講義を担当した。

②世界教養プログラム（近代日本の中の東京外国語大学）のリレー講義の一つとし

て、「東京外国語大学とアフリカ地域研究」(2020年12月16日)を担当した。

③次の博士論文審査委員を務めた。

- 1) Emmanuel Vincent Nelson Kallon “Challenges to liberal post-conflict peacebuilding in Sierra Leone: A case study of viability of liberal peacebuilding in Africa”.
- 2) Ian Karusigarira “Victims of violence or heroism?: A relational historical analysis of revolutionary regime culture and survival apocalypse in Uganda”.

b. 招へい研究者による授業

春学期1名、秋学期1名の招へいを予定していたが、いずれもコロナ禍のために延期となった。2021年度の招へいを目指して準備中である。

c. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」

日本貿易振興機構アジア経済研究所(IDE-JETRO)では、アジア・アフリカ諸国から研修員を招き、国際経済や開発に関する研修事業を提供している。この事業が「アイデアス」(IDEAS: IDE Advanced School)であり、20年以上の歴史がある。2018年度から、本センターが本学とアジア経済研究所の間を取り持つ形で、本学学生をアイデアスに参加させ、大学院総合国際学研究科で単位認定する試みを開始した。秋学期に合わせてセットされたアイデアス事業に、今年度は大学院生1名が参加した。

d. 学生支援

(ア) 調査支援

2020年度に博士後期課程のイアン・カルシガリラ(Ian Karusigarira)氏に対して調査支援を行い、2020年3月にウガンダに渡航させた。しかし、突然始まったロックダウンのために帰国できなくなり、2020年7月16日までウガンダに滞在を余儀なくされた。

(イ) シンポジウム・セミナーでの報告機会提供

第50回ASCセミナー(6月5日)では、高尾タビタ、森麻里永、中村茉莉(いずれも国際社会学部アフリカ地域専攻)各氏が、それぞれルワンダ、ノルウェー、南アフリカから報告した。第51回ASCセミナー(7月16日)では、ちょうどこの日帰国したイアン・カルシガリラ氏がウガンダでのコロナ対策について報告した。

2.3 シンポジウム・セミナー

a. ガーナ大学との共同セミナー

2020年2月にルワンダで開催したPIASSとの共同セミナーに続いて、ガーナ大学との共同セミナーを企画していたが、コロナ禍のために延期を余儀なくされた。現在、2021年度中の開催を目指して準備中である。

b. ASC セミナー

現代アフリカ地域研究センターが主催する ASC セミナーは、公式ウェブサイトや SNS に加えて当センターの開設したメーリングリスト（後述）を用いて広報している。2020 年度（令和 2 年度）は、下記 4.1 に示すとおり、9 回のセミナーを開催し、通算で 58 回の開催に至った。新型コロナウイルス感染症対策のため、すべて Zoom を用いてオンラインで開催した。今年度に開講した 9 回のうち、2 回は国際セミナーであった。別添として ASC セミナーのチラシを添付する。

c. その他、協力イベント

(ア) BLM セミナー

多文化共生研究創生ワーキンググループの企画により、2020 年 10 月以降、連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶこと—多文化共生、サステナビリティについて考えるために」が開催されている。この連続セミナーには、現代アフリカ地域研究センター関係者も様々な形で協力している。セミナーの内容は、次のとおりである。

回数	開催日	講演者	タイトル
第 1 回	10 月 21 日	荒このみ	『『アメリカの黒人』とは—文学を通して考える』
第 2 回	11 月 25 日	岩崎稔 友常勉	運動論から考える BLM 「民主主義とネクロポリティクス」 「BLM の文化交差性と日系移民史」
第 3 回	12 月 23 日	出町一恵 太田悠介	社会の中の分断と融和 「格差と没落—抑圧者の恐怖心」 「反人種主義のフランス思想—エティエンヌ・バリ バール」
第 4 回	1 月 20 日	中山裕美 山内由理子	『差別を支えてきたもの』はなにか 「『みえない／みえにくい』差別—学生と共に考える」
第 5 回	2 月 10 日	武内進一 中山智香子	アフリカ・グローバリゼーション・BLM 「アフリカ研究者が BLM から学んだこと」 「世界システムと BLM—極東からグローバルサウスを考える」

(イ) アフリカンウィークス（2020 年 11 月 30 日～12 月 18 日）

国際社会学部アフリカ地域専攻の学生が中心になって企画・運営する「アフリカンウィークス 2020 Jafrika～君と私とアフリカ～」に協力した。この企画は、映画上映、トークセッション、トークライブ、ポスター展示、文化紹介、写真展からなり、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のためいずれもオンラインで実施された。第 4 回 TUFs アフリカ写真コンテストと題された写真展は、一般から写真を募集したところ当センターで過去に招へい・招致したアフリカ人研究者

や留学生を含めて 28 点の写真の応募があり、そのうち 4 点が入選した。

(ウ) 映像人類学セミナー

映像人類学研究会 Anthro-Film Laboratory のセミナー「The Image-making from Africa, Part 1 - Perspectives from Visual Anthropology-」(2020 年 6 月 26 日 Zoom Meeting)、「The Image-making from Africa, Part 2 -Perspectives from Visual Anthropology-」(2021 年 3 月 16 日 Zoom Meeting)を共催し、アフリカの映像人類学について議論した。

2.4 人的交流

a. 研究者招へい

コロナ禍の影響により、2020 年度に予定していた次の 2 名の研究者招へいはいずれも延期となった。2021 年度秋学期に招へい予定で、現在準備を進めている。

エヴァリスト・フェドゥン・フォンゾッシ (Evariste Fedoung Fongzossie) ドゥアラ大学 (カメルーン)

クウェク・アンピア (Kweku Ampiah) リーズ大学 (英国)

b. 留学生招致活動

(ア) クラウドファンディング

本学初めてのクラウドファンディング (CF) であった 2018 年の企画に続き、「第 2 弾! 紛争を乗り越えて。ルワンダの大学から留学生を招こう」を実施した。100 万円を目標としていたが、147 人の支援者から計 1,425,000 円を獲得することができた。加えて、事業終了後に 1 名から直接の寄附(2 万円)があり、総額は 1,445,000 円に達した。コロナに関わる CF 企画が続々と出てくる中で、目標額を大きく超える成果を出した。

募集期間	2020 年 4 月 15 日～5 月 31 日
目標金額	1,000,000 円
使 途	ルワンダ・プロテスタント人文・社会科学大学(PIASS)より留学生 2 名を招致 寄附金が目標額を超え、翌年度の留学生支援も実施
寄附総額	1,445,000 円(含・直接寄附 2 万円) (前回 1,703,000 円)
寄附者数	148 人(含・直接寄附者 1 名) (前回 125 人)
実施方式	All or Nothing (目標金額を達成した場合のみ支援金を受け取ることができる)

本 CF で調達した資金は、今年度および来年度に来日する留学生のために利用する。まず、2020 年秋学期～2021 年春学期に本学に滞在する 2 名に対して、渡航費と一部生活費を提供した。次に、2021 年秋学期以降に来日する学生に対しては、残額を利用して生活費への補助を実施する予定である。

2020年秋学期から留学した2名については、当初9月下旬の来日を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2か月遅れで11月下旬に来日時期が変更になった。CF資金による留学生に対しては例年、支援者との交流会を開催してきたが、今回はオンラインで開催した(2020年12月17日)。交流会には約30人の支援者が参加し、PIASSに留学経験のある日本人学生が発表や通訳を行った。また、PIASSの佐々木和之先生がルワンダから参加するなど、オンラインのメリットを活かした交流会となった。2年前にCFによってPIASSから交換留学に来た学生(エリー・ロドリグ・イチャツェ氏)が、国費留学生として本学博士前期課程に再留学を果たし、この交流会に参加したことは、私たちにとって大きな喜びであった。

(イ) 世界展開力事業

2020年度に文部科学省から公募された「大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形成支援」において、東京外国語大学と京都大学の共同提案「アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム」が採択された。これにより、2020～24年度の5年間、アフリカの諸大学との学生交流は諸々の支援を受けることができ、さらなる活性化が見込まれる。加えて、このプログラムにおいては、アフリカに関わる日本の大学および実務機関をつなぐプラットフォームの構築を進める予定であり、日本におけるアフリカ関連ネットワークの充実が期待できる。

2.5 ネットワーキング

上で述べた世界展開力強化事業に加えて、2020年度、様々な形でアフリカ関連ネットワークの充実に努力した。以下、3点を挙げる。

第1に、2020年5月に開催された日本アフリカ学会第57回学術大会の実行委員会を現代アフリカ地域研究センターのメンバーが中心になって引き受けた。コロナ禍の拡大に伴って同大会はオンライン開催となったが、様々な工夫によって大過なく実施できた。研究発表を5月23～31日の9日間Dropbox上に公開する形で開催したが、ウェブページへの訪問者数521人、コメント総数230、閲覧総数11,525件に達し、会員から活発な参加がなされた。公開シンポジウムはZoomとYouTubeを通じて配信したが、それぞれ150人程度、250人程度が視聴した。従来の公開シンポジウムと比べて、多くの参加があったと評価できる。

第2に、2019年度からJICAアフリカ部との勉強会を続けている。これは、2019年7月に上智大学で開催したシンポジウム「日本のアフリカ研究を総覧する」から派生したもので、本学を中心とする研究者とJICAアフリカ部および在外事務所との意見交換の場となっている。2020年度は、5月と12月に開催した。

第3に、今後に向けて重要な点として、2021年度より、本学が日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)の議長校を務めることが挙げられる。本学はJAAN発足(2015年)以来のメンバーで、2018年度以降は議長校の北海道大学の下で京都大学とともに副議長校を務めてきたが、2021年度から3年の任期で議長校を務めることとなった。京都大学と北海道大学が副議長校を務める体制となる。JAANの活動は、当センターが進めてきたネットワーク構築に資するだけでなく、世

界展開力強化事業のプラットフォーム形成の趣旨とも合致するので、努力していきたいと考えている。

2.6 広報活動

a. センター公式ウェブサイト

2017年7月の公式ウェブサイトの設置以降、閲覧者は着実に増加してきており、今年度は、通算105,692のページビュー（閲覧されたページの合計数）であり（2021年3月8日現在）、昨年度の同期間と比較して約14,000ビュー増加している。なかでも、アフリカ関連情報の短信ページである「今日のアフリカ」、トップページ及びスタッフ紹介ページの閲覧が多かった。今年度は、昨年度に引き続き160本を超える記事を更新した（内訳は表1）

また、より見やすくするため、導線やコンテンツ内容、レイアウトの大幅な見直しを行った。新しいホームページは3月中に公開予定である。

表1 HP記事更新数内訳

2020年度		センターHP（全て記事公開日を基準にカウント）						
公開月	お知らせ	センターの活動	研究成果	活動記録 研究プロジェクト	ASC セミナー	招へい研究者・留学生	今日の アフリカ	現代アフリカ教育 研究基金
4月	1	1	1	1		4	11	3
5月		1				4	7	1
6月	2				1		5	1
7月	3	1			1		8	
8月							7	1
9月	2		1		1	1	7	1
10月	2					1	6	1
11月	6				3	2	12	
12月	2		3			2	6	2
1月	2		4		1		9	
2月	5		1		2	1	6	
3月	3		1		1		1	
合計	28	3	11	1	10	15	85	10

* 3月の集計データは2020年3月7日までのもの

b. SNS（フェイスブック、ツイッター）

センターに関する最新情報についてはFacebook及びTwitterといったSNSでも発信している。現在の各フォロワー数はFacebookで760、Twitterで857であり、昨年度末からFacebookで278、Twitterで342、フォロワーが増加している（2020年3月7日時点）。今年度の投稿記事（ツイー

ト) 数などは、表2に示すとおりである。

表2 SNS更新数内訳

2020年度 公開月	Facebook			Twitter		
	記事投稿数	いいね!	フォロワー	ツイート数	リツイート	いいね!
4月	32	38	39	30	79	107
5月	25	46	50	25	64	117
6月	8	23	28	7	11	17
7月	8	13	11	12	78	121
8月	8	13	17	7	40	54
9月	11	17	20	10	77	129
10月	9	19	17	11	62	92
11月	18	11	13	19	112	200
12月	9	12	12	13	54	78
1月	10	21	22	10	49	86
2月	10	23	34	10	53	97
3月*	1	11	15	1	22	28
合計	149	247	278	155	701	1126

* 3月の集計データは2020年3月7日までのもの。

c. メーリングリスト

2021年3月3日現在、登録者数は697名におよぶ。今年度はASCセミナーがオンライン開催となったことで登録者は昨年度から200名以上増えた。これまでと比較すると、特に東京近郊以外の教育・研究機関や海外機関所属の学生・研究者の新規登録者が顕著である。

d. センターパンフレットの改訂

新たな特任研究員の着任を含むセンタースタッフの所属変更にともない、2017年度に作成したセンターパンフレットを改訂した。

2.7 来年度に向けた活動

a. ガーナ大学との共同セミナー

2020年9月に予定していたガーナ大学との共同セミナーの開催を予定している。新型コロナウイルス感染症の影響にもよるが、可能になれば早期に実施したい。

b. 5周年記念シンポジウム

2021年度は現代アフリカ地域研究センター設立5年目にあたるため、記念シンポジウムを企画している。

3 センターの人員構成

当センターのスタッフは次のとおりである（2021年3月10日現在）。

センター長	武内進一
センター教員（兼担）	出町一恵、石川博樹、苅谷康太、箕浦信勝、中川裕、中山俊秀、中山裕美、大石高典、坂井真紀子、椎野若菜、品川大輔
特任研究員	村橋勲、村津蘭
アドバイザー	名井良三
事務局	緑川奈津子、村井登紀子

4 活動記録

4.1 ASC セミナー一覧

回	開催日	講師	題目	備考
50	6月5日（金）	佐々木和之（PIASS 上級講師） 高尾タビタ（東京外国語大学国際社会学部アフリカ地域専攻 /PIASS 留学生） 中村茉莉（東京外国語大学国際社会学部アフリカ地域専攻） 森麻里永（東京外国語大学国際社会学部アフリカ地域専攻/トロムソ大学-ノルウェー北極大学留学生）	コロナ禍とアフリカ	日本アフリカ学会関東支部第1回例会を兼ねる 参加者 170 人 オンライン開催
51	7月16日（木）	エヴァリスト・フェドゥン・フォンゾッシ（ドゥアラ大学・上級講師） イアン・カルシガリラ（東京外国語大学・博士課程）	Challenges and Responses to COVID-19 pandemic in African societies: Case reports from Cameroon and Uganda	参加者 102 人 オンライン開催
52	9月29日（火）	白戸圭一（立命館大学国際関係学部・教授）	TICAD（アフリカ開発会議）誕生秘録—日本外交は何を目指したのか	日本アフリカ学会関東支部第2回例会を兼ねる 参加者 240 人 オンライン開催
53	10月29日（木）	中尾世治（総合地球環境学研究所・特任助教）、コメンテーター：大石高典（東京外国語大学大学院総合国際学研究院・准教授）	西アフリカ内陸の近代史と歴史—史資料の偏在とパースペクティブ	日本アフリカ学会関東支部第3回例会を兼ねる 参加者 90 人 オンライン開催
54	11月12日（木）	スティーブン・C・Y・クオ（プレトリア大学ゴードン・インスティテュート・オブ・ビジネス・サイ	Chinese Peace in Africa: From Peacekeeper to Peacemaker	日本アフリカ学会関東支部第4回例会を兼ねる

回	開催日	講師	題目	備考
		エンス〈GIBS〉・助教)		参加者 50 人 オンライン開催
55	11月27日(金)	村橋勲(東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・特任研究員)、コメンテーター:中山裕美(東京外国語大学大学院総合国際学研究院・准教授)	ウガンダモデルを再考する—南スーダン難民受け入れの現状と課題	日本アフリカ学会関東支部第5回例会を兼ねる 参加者 100 人 オンライン開催
56	1月8日(金)	村津蘭(東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・特任研究員)	憑依による妖術師の変容—ベナン南部のベンテコステ・カリスマ系教会におけるデリヴァランス儀礼を通して	日本アフリカ学会関東支部第6回例会を兼ねる 参加者 60 人 オンライン開催
57	2月18日(木)	榎本珠良(明治大学研究・知財戦略機構・特任教授)	「人道的軍備管理」における人種主義: Black Lives Matter 運動後の開発・人道支援と軍備管理	日本アフリカ学会関東支部第7回例会を兼ねる 参加者 64 人 オンライン開催
58	3月2日(火)	杵掛沙弥香(日本学術振興会特別研究員 PD/東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・共同研究員)、コメンテーター:砂野幸稔(熊本県立大学・名誉教授)	アフリカにおける教育と言語:主にタンザニアの事例から	日本アフリカ学会関東支部第8回例会を兼ねる 参加者 101 人 オンライン開催

4.2 主催・協力イベント一覧

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
共催	5月28日	第3回アフリカ研究者~JICA アフリカ部勉強会「アフリカにおける新型コロナウイルス感染症対策の現状と課題」	共同主催: JICA アフリカ部
共催	6月26日	映像人類学研究会セミナー The Image-making from Africa, Part 1: Perspectives from Visual Anthropology	主催: 映像人類学研究会 Anthro Film Laboratory
共催	11月30日~12月18日	African Weeks オンライン写真展 『日本で見つけたアフリカ』『アフリカで見つけた日本』	主催: アフリカンウィークス 2020 実行委員会
共催	11月30日~12月18日	African Weeks オンライン・ポスター展示	主催: アフリカンウィークス 2020 実行委員会
共催	11月30日~12月18日	African Weeks オンライン文化紹介	主催: アフリカンウィークス 2020 実行委員会
共催	12月4日	第4回アフリカ研究者~JICA アフリカ部勉強会「ポスト・コロナ時代のアフリカ開発」	共同主催: JICA アフリカ部
共催	12月5日	映画『バベルの学校』オンライン上映会&ディスカッション	主催: アフリカンウィークス 2020 実行委員会

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
共催	12月5日	African Weeks トークセッション with African Youth Meetup	主催：アフリカンウィークス 2020 実行委員会
共催	12月11日	African Weeks トークライブ 「鈴木裕之さんとニヤマ・カンテさんを招いて共生を語る」	主催：アフリカンウィークス 2020 実行委員会
後援	3月15日	駐ルワンダ日本国大使&JICA ルワンダ事務所所長合同講演会	主催：学生団体 MPJ Youth 協力：在ルワンダ日本国大使館、JICA ルワンダ事務所
共催	3月16日	映像人類学研究会セミナー The Image-making from Africa, Part 2: Perspectives from Visual Anthropology	主催：映像人類学研究会 Anthro Film Laboratory
共催	3月19日	次世代研究ワークショップ「次世代に向けた日本研究の可能性—南アフリカ—」	主催：国際日本研究センター

4.3 主要来訪者一覧

7月22日 堤尚広駐南スーダン日本国新大使／岡田誠司前大使

10月21日 丸橋次郎駐アンゴラ日本国大使

11月25日 国際開発ジャーナル社 朝比奈 悠介氏

5 センター教員・研究員の業績

5.1 研究活動

a. 著作（単著・共著・編著）

村橋勲（2021）『南スーダンの独立・内戦・難民——希望と絶望のあいだ』, 昭和堂, 320pp.

中山俊秀・大谷直輝（編著）（2020）『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点：用法基盤モデルに基づく新展開』, ひつじ書房, 408pp.

Suraratdecha, Sumittra and Toshihide Nakayama (Eds.) (2020) *Documentary Linguistics: Working with Communities*. John Benjamins Publishing Company, 122pp.

Lee, Seunghun, Yuko Abe, and Daisuke Shinagawa (Eds.) (2021) *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu vol. 2: A microparametric survey of morphosyntactic microvariation in Southern Bantu languages*. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa at Tokyo University of Foreign Studies. (forthcoming)

Shiino, Wakana, Soichiro Shiraishi, and Ian Karusigarira (Eds.) (2021) *Youth in Struggles: Unemployment, Politics, Cultures and Singleness in Contemporary Africa*. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies (TUFS). (forthcoming)

ASC-TUFS Working Papers Volume 1 (2021) (2021). Tokyo: African Studies Center - Tokyo University of Foreign Studies. iv+321pp. (Editorial Board: Shinichi Takeuchi, Kazue Demachi, Isao Murahashi, Ran Muratsu, Yumi Nakayama, Takanori Oishi, and Makiko Sakai).

b. 論文

- Demachi, Kazue (2021) “The economy of pawning: Institutionalism revisited”. *ASC-TUFS Working Papers* 1: 3-19. (forthcoming)
- Kariya, Kota (2020) “Free Choice Theory and the Justification of Enslavement in the Early Sokoto Caliphate”. *Islamic Africa* 11(1): 1–41.
- Kariya, Kota (2021) “A Treatise on Zinā in the Early Sokoto Caliphate: Muḥammad Bello’s al-Qawl al-Marham”. *Journal of Asian and African Studies* 101. (forthcoming)
- Murahashi, Isao (2021) “Conflict-induced migration and local development: The socio-economic dynamics of a refugee-hosting area in Uganda”. *ASC-TUFS Working Papers* 1:253-272. (forthcoming)
- 村津蘭 (2020) 「妖術師の生成するところ—ベナンの新宗教の実践における身体・情動・マテリアリティ—」, 川田牧人・白川千尋・飯田卓編『現代世界の呪術—文化人類学的探究』(春風社), pp.389-414.
- 加藤幹治・大野仁美・中川裕 (未定) 「グイ語資料：受動表現」『語学研究所論集』 25.
- 加藤幹治・大野仁美・中川裕 (未定) 「グイ語資料：アスペクト」『語学研究所論集』 25.
- 加藤幹治・大野仁美・中川裕 (未定) 「グイ語資料：モダリティ」『語学研究所論集』 25.
- 加藤幹治・大野仁美・中川裕 (未定) 「グイ語資料：ヴォイスとその周辺」『語学研究所論集』 25.
- 木村公彦・大野仁美・中川裕 (未定) 「グイ語資料：他動性」『語学研究所論集』 25.
- 木村公彦・大野仁美・中川裕 (未定) 「グイ語資料：〔連用修飾的〕複文」『語学研究所論集』 25.
- 木村公彦・大野仁美・中川裕 (未定) 「グイ語資料：情報表示の諸要素」『語学研究所論集』 25.
- 木村公彦・大野仁美・中川裕 (未定) 「グイ語資料：所有・存在表現」『語学研究所論集』 25.
- 堀内ふみ野・中山俊秀 (2020) 「発話頭の「ハ」成立の動機付け—動的文法観に基づく—考察—」, 田中廣明ほか編『動的語用論の構築に向けて』, pp. 176-197.
- 大谷直輝・中山俊秀 (2020) 「用法基盤モデルの言語観」, 中山俊秀・大谷直輝編『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点』(ひつじ書房), pp. 3-25.
- 大谷直輝・中山俊秀 (2020) 認知言語学と談話機能言語学, 中山俊秀・大谷直輝編『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点』(ひつじ書房), pp. 27-48.
- Nakayama, Toshihide and Fumino Horiuchi* (2020) “Demystifying the development of a structurally marginal pattern: A case study of the wa-initiated responsive construction in Japanese conversation”. *Journal of Pragmatics* 172: 215-224.
- 中山裕美 (2020) 「難民受け入れ—ブッシュの中にあるフロンティア」, 島田周平・大山修一編『ザンビアを知るための55章』(明石書店), pp. 330-333.
- 中山裕美 (2020) 「日常的に越境移動する人々をめぐる政治的实践—南部アフリカにおける事例から—」, 松尾昌樹・森千香子編『グローバル関係学6 移民現象の新展開』(岩波書店), pp. 113-132.
- 中山裕美 (2021) 「移民・難民—複雑化する移動とガバナンスの変化」, 西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論—制度・過程・行為主体—』(ミネルヴァ書房), pp. 186-194.
- 中山裕美 (2021) 「UNHCR をめぐる関係性の変容と人道規範の危機—湾岸アラブドナーの台頭を

- どう見るか—], 松永泰行編『グローバル関係学2 「境界」に現れる危機』(岩波書店), pp. 151-171.
- 大石高典 (2020) 『『実験』からはみ出るものから考える——見られ描かれる顔・身体文脈化』, 床呂郁哉編『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築 (第三回)』, pp. 41-54.
- 鈴木玲治・大石高典 (2020) 「焼畑復活と地域社会——地域資源に着目した地域振興の可能性 (特集: 現代によみがえる焼畑——山村と都市をつなぐ地域文化)」, 『農業と経済』2020年6月号, pp. 41-51.
- 飯塚宜子・園田浩司・田中文菜・大石高典 (2020) 「教室にフィールドが立ち上がる——アフリカ狩猟採集社会を題材にした演劇手法を用いたワークショップ」, 『文化人類学』85(2):325-335.
- 高橋康介・島田将喜・大石高典・錢琨・田曉潔 (2020) 「タンザニア・カメルーン・日本でのフィールド実験による顔パレイドリアの多様性の検討」, 『日本認知科学会第37回大会発表論文集』, pp. 52-57.
- 大石高典 (2020) 「センザンコウの肉と鱗」, 秋道智彌・岩崎望編『絶滅危惧種を喰らう』(勉誠出版), pp. 59-64.
- 大石高典 (2021) 「カメルーンのバカ・ピグミーにおける犬をめぐる社会関係」, 『心理学ワールド』92: 13-16.
- Sakai, Makiko (2020) “Characteristics of Bike taxis in African rural society: A case study of Dschang, West Cameroon”. *Discussion Paper*. Fondation France-Japon de l’EHESS.
- Sakai, Makiko (2021) “Struggles of young bike taxi men in West Cameroon - Rethinking a ‘Bamiléké’s survival strategy’ toward the new era”. In *Development and Subsistence in Globalising Africa: Beyond the Dichotomy*. Eds. Motoki Takahashi, Shuichi Oyama, and Herinjatovo Aimé Ramiarison, Langaa RPCIG CAAS Mankon Bamenda - Kyoto University, pp. 347-374. (forthcoming)
- 坂井真紀子 (2021) 「チャド」、阪本公美子・岡野内正・山中達也 (編) 『ハンドブック日本の国際協力 中東・アフリカ編』(ミネルヴァ書房). (2021年3月出版予定)
- Abe, Yuko, Seunghun Lee, and Daisuke Shinagawa (2020) “A Morphosyntactic Survey of Microvariation of Southern Bantu languages: A pilot case of a collaborative linguistic research in African contexts”. In 韓国アフリカ学会 2020年後期学術会議予稿集, pp. 29-42.
- 品川大輔 (2021) 「ロンボ語 (Bantu E623) の声調パターン概観」, 梶茂樹 (編) 『アフリカ諸語の声調・アクセント』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所), pp. 167-202.
- Masilela, Piet and Daisuke Shinagawa (2021) “Southern Ndebele”. In *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu vol. 2: A microparametric survey of morphosyntactic microvariation in Southern Bantu languages*. Eds. Seunghun Lee, Yuko Abe, and Daisuke Shinagawa, Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa at Tokyo University of Foreign Studies. (forthcoming)
- Shinagawa, Daisuke (2021) “Aspects of linguistic dynamism in Sheng as Kenyan Colloquial Swahili: focusing on de-standardisation and re-vernacularisation”. In: *Dynamism in African Languages and Literature: Towards Conceptualisation of African Potentials*. Eds. Keiko Takemura and Francis B. Nyamnjoh, Bamenda: Langaa RPCIG. (forthcoming)

- 武内進一(2020)「コンゴ民主共和国の歴史と紛争—難民発生要因の見取り図」,『難民ジャーナル』
8: 16-33.
- 武内進一 (2020)「アフリカ研究者の紛争研究—日本の国際政治学と紛争研究」,『国際政治』 200:
23-36.
- 武内進一 (2020)「近年のアフリカ政治経済」,『地理』 65(4): 64-70.
- 武内進一 (2020)「ルワンダ—紛争後の急成長とその課題」,『地理』 65(11): 72-78.
- Takeuchi, Shinichi (2021) “When African Potentials fail to work: The background to recent land conflicts in
Africa”. In *African Politics of Survival Extraversion and Informality in the Contemporary World*.
Edited by Mitsugi Endo, Ato Kwamena Onoma & Michael Neocosmos, Bamenda: Langaa RPCIG,
pp.121-146.

c. エッセイ、その他

- 村橋勲 (2020)「インジェラの味はどんな味?」,『VESTA』 No.118 (味の素食の文化センター),
pp. 17-19.
- 村橋勲 (2020) (書評)「飛内悠子 (著)『未来に帰る——内戦後の〈スーダン〉を生きるクク人の
移住と故郷—』」,『アフリカ研究』 98: 68-71.
- 村津蘭 (2020) (インタビュー聞き手・翻訳)「モンゴルの医療、マルチスピーシーズ・ストーリー
テリング、マルチモーダル人類学」, *More-Than-Human Vol.2* ナターシャ・ファイン インタビ
ュー (『ÉKRITS / エクリ』掲載).
- 村津蘭 (2021)「日本の汚い・ベナンのきれい」, NPO 法人アフリック・アフリカ公式 Web サイト
掲載.
- 大石高典 (連載)「河童のアフリカ研究」, 俳句雑誌『氷室』.
- 大石高典 (2020) (紹介)「ボニー・ヒューレット (著)、服部志帆・大石高典・戸田美佳子 (訳)
『アフリカの森の女たち——文化・進化・発達的人类学』」, 特定非営利活動法人アフリック・
アフリカ【おすすめアフリカ本】.
- 大石高典 (2020)「女は文化なのか? 自然なのか? ——語りからさぐる人類社会の多様性と普遍
性」(『アフリカの森の女たち』刊行記念特集), 春風社ホームページ.
- 大石高典 (2020)「中部アフリカ諸国の『コロナ対策』と森の民への眼差し」,『顔身体学ブログ』
(新学術顔身体学ホームページ).
- 大石高典 (2020) (書評)「蛭原一平・齋藤暖生・生方史数 (編)『森林と文化—森とともに生きる
民俗知のゆくえ (森林科学シリーズ 12)』」,『アジア・アフリカ地域研究』 20(1): 165-168.
- 大石高典 (2020) (コラム<解説>)「センザンコウの肉と鱗」, 秋道智彌・岩崎望編『絶滅危惧種
を喰らう』(勉誠出版), pp. 59-64.
- 大石高典 (2020) (書評)「高倉浩樹 (編)『寒冷アジアの文化生態史』」,『文化人類学』 85 (3) : 559-
562.
- 大石高典 (2020) (紹介)「小倉充夫・船田クラーク・センさやか (著)『解放と暴力——植民地支配と
アフリカの現在』」, 特定非営利活動法人アフリック・アフリカ【おすすめアフリカ本】.
- 大石高典 (2021)「テレワーク」(2020 年度作品コンクール入選俳句 10 句), 俳句雑誌『氷室』 29(1):

19.

大石高典 (2021) (事典項目)「焼畑」, 日本森林学会編『森林学の百科事典』(丸善出版), pp. 424-425.

大石高典 (2021)「顔と emoji のフィールドワーク——異分野融合のフィールド実験で『顔を見る／読む／描く』に挑む」, 『フィールドプラス』No. 25: 23-25.

大石高典・神代ちひろ (編) (印刷中) (教材作成)『外大生が見たアフリカ、アフリカ人学生が見た日本——留学体験記集 2016-2020 / Inbetween Africa and Japan: Stories of study abroad experiences 2016-2020』.

坂井真紀子 (2021)「植民地の歴史と社会開発」, 『ピエリア』第 13 号. (2021 年発行予定)

坂井真紀子 (2021) (書評)「山田肖子 (編)『世界はきっと変えられる』」, 『アフリカ研究』99.

椎野若菜 (2020)「フィールドワーカーの留守番家族が考える安全対策とは——コロナ禍のウガンダ国空港閉鎖の経験」, 『月刊 地理』2020 年 9 月号, pp. 44-51.

武内進一・松波康男 (2020) (日本語字幕監修)『アデ・アデピタンとめぐるアフリカ最前線 (原題”Africa with Ade Adepitan”原版 2018 年)』DVD 全 4 巻 (1 巻: アフリカ西部、2 巻: アフリカ中部、3 巻: アフリカ東部、4 巻: アフリカ南部), 提供: BBC Studios, 日本語字幕版製作: 丸善出版株式会社.

武内進一 (2020) (資料紹介)「今井 一郎 (編)『アフリカ漁民文化論——水域環境保全の視座——』」, 『アフリカレポート』58: 27.

武内進一 (2020) (資料紹介)「松浦直毅・山口亮太・高村伸吾・木村大治 (編著)『コンゴ・森と河をつなぐ——人類学者と地域住民がめざす開発と保全の両立——』」『アフリカレポート』58: 85.

武内進一 (2020)「シンポジウム『日本のアフリカ研究を総覧する』」, 『アフリカ研究』97: 59-62.

武内進一 (2020)「TICAD と FOIP—日本のアフリカ外交とその課題」, 『修親』令和 2 年 9 月号 (通巻 734 号), pp.10-13.

武内進一 (2020)「外大でアフリカ研究を仕事にする」, 『La Nouvelle』No.25 (automne).

武内進一 (2021) (書評)「谷口美代子 (著)『平和構築を支援する——ミンダナオ紛争と和平への道』」, 『東南アジア研究』58(2): 277-279.

Takeuchi, Shinichi (2021) “Foreword”. *ASC-TUFS Working Papers* 1: 1. (forthcoming)

d. 学会・シンポジウム

石川博樹 (2020)「経済活動から見た北部エチオピアの 2 王国の比較研究」, 日本アフリカ学会第 57 回学術大会, 2020 年 5 月 23~31 日 (東京外国語大学 / オンライン).

石川博樹 (2020)「FAOSTAT に基づくアフリカにおけるジャガイモ栽培の変遷 (1961~2018 年)」, 科研費基盤研究 (B)「アフリカ食文化研究の新展開: 食料主権論のために」2020 年度第 2 回研究会, 2020 年 8 月 27 日 (オンライン).

石川博樹 (2020)「エチオピアのオロモの移動: その歴史的意義と研究の困難さ」国立民族学博物館共同研究課題「人類史における移動概念の再構築: 「自由」と「不自由」の相克に注目して」2020 年度第一回研究会, 2020 年 11 月 28 日 (国立民族学博物館 / オンライン).

- 荻谷康太 (2021) 「初期ソコト・カリフ国における医学と奴隷狩り」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 AA 研フォーラム、2021 年 1 月 21 日 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所).
- Muratsu, Ran (2020) “Multimodal Spirits”. *A Biennial Conference of the Society of Cultural Anthropology and Society of Visual Anthropology ‘Distributed 2020’*. May 30, 2020 (online).
- 村津蘭 (2020) 「ペンテコステ派・カリスマ派を起因とする霊的存在の変容—ベナンのデリヴァランス儀礼を事例として—」, 日本アフリカ学会第 57 回学術大会, 2020 年 5 月 23~31 日 (東京外国語大学/オンライン).
- 村津蘭 (2020) 「妖術をめぐる想像と憑依—ベナンにおける悪魔と対峙する新宗教を事例として—」, 日本文化人類学会第 54 回学術大会, 2020 年 5 月 30 日 (オンライン).
- 村津蘭 (2020) 鼎談「人類学とマンガ—民族誌における文字とイメージの覚醒に向けて—武富健治×村津蘭×奥野克巳」, 第 45 回マルチスピーシーズ人類学研究会, 2020 年 6 月 12 日 (オンライン).
- 村津蘭 (2020) 「悪霊との情交—西アフリカ、精霊マミワタの憑依におけるペンテコステ・カリスマ系教会の役割—」, 立教大学史学会大会シンポジウム『アフリカの若者の身体』, 2020 年 10 月 3 日(オンライン).
- 中川裕・アレナ ウィツラック=マカレヴィチ・木村公彦 (2020) 「言語音の限界縁：カラハリ言語帯音韻類型論」, 日本アフリカ学会第 57 回学術大会, 2020 年 5 月 23~31 日 (東京外国語大学/オンライン)
- 中川裕 (2020) 「言語音の外延のより良い理解のために：カラハリ言語帯音韻類型論」, NINJAL コロキウム, 2020 年 10 月 13 日 (国立国語研究所).
- Oishi, Takanori and Evariste Fedoung Fongnzossie (2020) “Diversity of forest landscapes recognized by forest dwellers of Congo Basin: Intra- and inter- group variation among the Baka and the Bakwele of southeastern Cameroon”. 日本アフリカ学会第 57 回学術大会, ポスター発表, 2020 年 5 月 23~31 日 (東京外国語大学/オンライン).
- 大石高典 (2020) 「媒介者としてのハチ——人=ハチ関係からポリネーションの人類学へ」, 第 49 回マルチスピーシーズ人類学研究会 (テーマ:「絡まり合う種と人間~日本におけるマルチスピーシーズ人類学の新展開~」), 2020 年 9 月 28 日 (立教大学/オンライン).
- 大石高典 (2020) 「コメント」, 第 53 回 ASC セミナー「西アフリカ内陸の近代史と歴史：史資料の偏在とパースペクティブ」(講演者：中尾世治)、2020 年 10 月 29 日 (オンライン).
- 黒田末寿・島上宗子・増田和也・野間直彦・鈴木玲治・今北哲也・大石高典 (2021) 「積雪地域の斜面草場を利用した焼畑——雪と女性が支えた焼畑を見なおす」, 生態人類学会第 26 回研究大会, 2021 年 3 月 13~14 日 (帝京科学大学/オンライン).
- Shinagawa, Daisuke and Junko Komori (2020) ”Stop series in Niger Congo”., AA 研共同利用・共同研究課題「アジア・アフリカ地理言語学研究」2020 年度第 1 回研究会, October 10, 2020.
- 品川大輔 (2020) 「バントゥ諸語における否定とフォーカスのインタラクション: マイクロバリエーション研究からのアプローチ」, 東京外国語大学語学研究所定例研究会, 2020 年 10 月 21 日 (オンライン).
- Abe, Yuko, Seunghun Lee, and Daisuke Shinagawa (2020) “A Morphosyntactic Survey of Microvariation of

- Southern Bantu languages: A pilot case of a collaborative linguistic research in African contexts”. 韓国アフリカ学会 2020 年後期学術会議, December 4, 2020.
- 椎野若菜 (2020) 「趣旨説明」, 科研費基盤 (S) 「『アフリカ潜在力』と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究」第 16 回全体会議「ジェンダー・セクシュアリティ班ワークショップ」, 2020 年 6 月 20 日 (オンライン).
- 椎野若菜 (2020) 「東アフリカにおける月経観と月経にかんする教育事情：ケニア・ウガンダ」, JICA 月経衛生対処勉強会, 2020 年 9 月 11 日 (オンライン).
- 椎野若菜 (2020) 「総括」, FENICS 共催サロン「女性・若手研究者がフィールドで直面するハラスメント」第 1 回テーマ：学生が現地であう性被害, 2020 年 9 月 24 日 (オンライン).
- Shiino, Wakana (2020) “Introduction”. *ILCAA International Zoom Symposium: How Are Young People in Africa Thinking and Living? : Education, Unemployment, Aesthetics, Politics, and Singleness*. November 2, 2020 (Online).
- Shiino, Wakana (2020) “House Girl’s Life Plan in Nairobi: Reality and Dream”. *ILCAA International Zoom Symposium: How Are Young People in Africa Thinking and Living? : Education, Unemployment, Aesthetics, Politics, and Singleness*. November 2, 2020 (Online).
- 椎野若菜 (2021) 「乳幼児とともに国際集会を開く」, ダイバーシティセミナー・国際共同研究交流会, 2021 年 2 月 8 日 (オンライン).
- 椎野若菜 (2020) 「Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach」, 科研費基盤 (S) 「『アフリカ潜在力』と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究」第 19 回全体会議「『アフリカ潜在力』のプロジェクト 10 年」 African Potentials: Convivial Perspective for the Future of Humanity (アフリカ潜在力：人間探求のためのコンヴィヴィアルな視点) シリーズ全 7 巻の成果報告, 2021 年 3 月 6 日 (オンライン).
- 椎野若菜 (2021) 「世界の／で子育て：親子の＜当たり前＞再考①」, ヘンパシーサロン／FENICSzoom サロン, 2021 年 3 月 26 日 (予定) (オンライン).
- 椎野若菜 (2021) 「事例発表 3：研究プロジェクトや学会活動への若手・女性の参加促進の制度」, 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (ギース) 公開シンポジウム (案), 2021 年 3 月 28 日 (オンライン).
- Takeuchi, Shinichi and Jean Marara (2020) “Land Law Reform and State-building in Rwanda”. *PIASS-TUFS Joint Seminar on Resource Management and Development*. February 18, 2020. Huye, Rwanda.
- 武内進一 (2020) 「コメント」, 「インフォーマルな政治制度とガバナンス」2020 年度日本比較政治学会 (第 23 回大会) 共通論題, 2020 年 6 月 28 日 (オンライン).

e. 一般向け講演

- 出町一恵 (2020) 「格差と没落—抑圧者の恐怖心」, 第 3 回 BLM セミナー, 2020 年 12 月 23 日 (オンライン).
- 村橋勲 (2020) 「ウガンダモデルを再考する—南スーダン難民受け入れの現状と課題」, 第 55 回 ASC セミナー／日本アフリカ学会関東支部 2020 年度第 5 回例会, 2020 年 11 月 27 日 (オンライン).

村橋勲 (2020) 「ウガンダの難民—セトルメントにおける難民受け入れの現状」、国連フォーラム 主催ウガンダ・スタディ・プログラム オンラインブリーフィング, 2020年11月3日 (オンライン).

村橋勲 (2021) 「難民による『住まい』の創造—南スーダン、ロピット難民のモノと身体の文化」、第8回若手難民研究者奨励賞受賞者による中間報告会, 2021年2月8日.

村津蘭 (2021) 「憑依による妖術師の変容—ベナン南部のペンテコステ・カリスマ系教会におけるデリヴァランス儀礼を通して」、第56回ASCセミナー／日本アフリカ学会関東支部2020年度第6回例会, 2021年1月8日 (オンライン).

大石高典・園田浩司・田中文菜・矢野原佑史・弓井茉奈・飯塚宜子 (2020) 「トリップ1: ゾウのいる森で遊ぶぞう! オンライン (カメルーンのバカ・ピグミー)」, 京都で世界を旅しよう! 2020地球たんけんたい vol. 9, 2020年11月22日 (オンライン).

大石高典 (2021) (高校生向け講演) 「生物多様性の保全と文化—アフリカの森の民と考える」, 『西東京国立三大学高校生グローバルスクール』, 2021年3月20日 (予定) (東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学／オンライン).

坂井真紀子 (2020) 「カメルーン英語圏の帰属をめぐる紛争の歴史」, 東京外国語大学夏期世界史セミナー—世界史の最前線 XII—, 2020年7月29日 (オンライン).

坂井真紀子 (2020) 「アフリカにおける多言語状況」, 都立立川高等学校2年生向け出前授業, 2020年10月29日.

坂井真紀子 (2020) (グループワークへのメールでのアドバイス (数回) と授業へのZoom参加) 「チャド湖の砂漠化と人々の暮らしについて」, 京都すばる高等学校ビジネス探求科, 2020.11.2~2020.12.30.

武内進一 (2020) 「アフリカの土地法改革が示すもの—背景、結果、国家建設への含意」, SRID懇談会, 2020年8月18日.

武内進一 (2021) 「アフリカ研究者がBLMから学んだこと」, 東京外国語大学連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶこと」第5回「アフリカ・グローバリゼーション・BLM」, 2021年2月10日 (オンライン).

f. 企画・運営・事務局等

武内進一・出町一恵・石川博樹・苅谷康太・村橋勲・村津蘭・中川裕・中山裕美・大石高典・坂井真紀子・品川大輔・椎野若菜 (2020) (実行委員) 日本アフリカ学会第57回学術大会, 2020年5月23~24日, 東京外国語大学.

大石高典・志村真幸 (2020) 『犬からみた人類史: 紀州編』写真展, 南方熊楠顕彰館主催, 南方熊楠顕彰館 (和歌山県田辺市).

椎野若菜 (2021) FENICS 共催サロン「女性・若手研究者がフィールドで直面するハラスメント」第2回「フィールドで、性被害に遭ってしまったら」, 2021年1月29日 (オンライン).

5.2 教育活動

a. 本学内における今年度担当授業

教員名	学部／研究科	授業科目	授業題目	学期
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)/専攻言語 (英語II-5)	世界経済グローバル化の歴史	春
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)/専攻言語 (英語II-5)	世界経済グローバル化の歴史	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済概論 2	国際金融論	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 2/経済学 B	世界各国・地域の最新経済事情 *1	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 A	国際経済学I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 B	国際経済学II	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 A (専門演習)	国際経済論 (専門演習) I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 B (専門演習)	国際経済論 (専門演習) II	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 A	国際経済論 (卒論演習) I	春
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 B	国際経済論 (卒論演習) II	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業論文	国際経済論 (卒業論文)	通年
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 3	Research Seminar on International Economics	春
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 4	Research Seminar on International Economics	秋
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係論 1	Advanced Research Seminar on International Economics	春
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係論 2	Advanced Research Seminar on International Economics	秋
石川博樹	国際社会学部	アフリカ地域研究 A	世界史のなかのエチオピア	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地 域研究 1	アフリカ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地 域研究 2	アフリカ歴史文化論	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地 域研究 1	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地 域研究 2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
石川博樹	総合国際学研究科	比較社会論	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
石川博樹	総合国際学研究科	比較社会論	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アフリカ歴史文化論	アフリカ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アフリカ歴史文化論	アフリカ歴史文化論	秋
荻谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地 域研究 1	西アフリカ・アラビア語文献講読	春
荻谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地 域研究 2	西アフリカ・アラビア語文献講読	秋
箕浦信勝・益 子幸江・佐野 洋・望月源・ 中川裕	言語文化学部	言語研究入門 3/音声学概論 B	言語の研究入門	秋
箕浦信勝・益 子幸江・佐野 洋・望月源・ 中川裕	言語文化学部	言語研究入門 3/音声学概論 A	言語の研究入門	春
村橋勲・村津 蘭	国際社会学部	アフリカ地域研究 2/アフリカ地域研究 B	アフリカの宗教とエスニシティ	秋
中川裕	言語文化学部	言語研究入門 A	音韻論入門	春

教員名	学部／研究科	授業科目	授業題目	学期
中川裕	言語文化学部	音声学概論1／音声学概論A	音韻論入門	春
中川裕	言語文化学部	音声学A(専門演習)	音声資料分析実習	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学1／言語基礎論	音声学と音韻論	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究1	大学院生のための音韻論再入門	春
中山俊秀	世界教養プログラム	地球社会と共生2B／多文化社会1	Language revitalization and community engagement	冬
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学1／言語基礎論	言語使用を基盤として文法を考える：理論と方法	春
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学2／言語基礎論	言語使用における文法の研究：文法の多重性	秋
中山裕美	国際社会学部	政治学入門3／国際関係論入門B	国際政治学入門	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治概論A	国際政治理論	春
中山裕美	国際社会学部	国際関係論A	国際人口移動と国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論2／国際関係論B	国際関係の中の地域主義	秋
中山裕美	国際社会学部	国際関係論A(専門演習)	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	国際関係論B(専門演習)	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業論文	国際協調	通年
中山裕美	国際社会学部	卒業論文演習A	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	卒業論文演習B	国際協調	秋
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論2	国際協調	秋
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究2	国際協調	秋
中山裕美	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論3/A	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論4/B	言語学概論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学A	形態論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学A(専門演習)	言語記述のための類型論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学B(専門演習)	言語記述のための類型論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学特殊研究A	「語」とは何か？再考	春
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文演習A	言語学卒論演習	春
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文演習B	言語学卒論演習	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究1	個別言語の文法記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究2	個別言語の文法記述研究	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	言語学修論演習	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	言語学修論演習	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学1／言語基礎論	言語記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学2／言語基礎論	言語記述研究	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	世界のことばB／アフリカの言語2	マダガスカル語	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文	言語学卒業論文	通年
大石高典	世界教養プログラム	地域言語A(英語II-1)／専攻言語(英語II-1)	アフリカ研究のための英語1	春
大石高典	世界教養プログラム	地域言語A(英語II-6)／専攻言語(英語II-6)	アフリカ地域研究のための英語2	秋
大石高典	世界教養プログラム	地域基礎2A(アフリカ1)／アフリカ地域基礎1	アフリカ地域研究入門I	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究2／アフリカ地域研究B	民族誌から学ぶアフリカの生活世界2	秋

教員名	学部／研究科	授業科目	授業題目	学期
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究 A	民族誌から学ぶアフリカの生活世界 1	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究 A(専門演習)	フィールド人類学・地域研究	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究 B(専門演習)	フィールド人類学・地域研究II	秋
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 A	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 1	春
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 B	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 2	秋
大石高典	国際社会学部	卒業論文	プロセスとしての卒業論文	通年
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア 地域研究 17	生態人類学の理論と方法I	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア 地域研究 18	生態人類学の理論と方法II	秋
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア 地域研究 1	生態人類学講究 1	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア 地域研究 2	生態人類学講究 2	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 A(英語I-9)/専攻言語 (英語I-9)	African studies through English II * 2	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 B(アフリカ関連語 7)/教養 外国語(フランス語 B3)	フランス語で見るアフリカ II	春
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 B(アフリカ関連語 8)/教養 外国語(フランス語 B4)	フランス語で見るアフリカ II	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域基礎 2A(アフリカ 2)/アフリカ地域 基礎 2	アフリカ地域研究入門 2	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域基礎 2B(アフリカ 1)/アフリカ地域 基礎 3	アフリカの歴史 (3)	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 2/アフリカ地域研究 B	アフリカと開発 (B)	秋
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 A	アフリカと開発 (A)	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 A(専門演習)	アフリカ地域ゼミ	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 B(専門演習)	アフリカ地域ゼミ	秋
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 A	卒業論文演習 I	春
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 B	卒業論文演習 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地 域研究 17	仏語圏アフリカ地域研究 II	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア 地域研究 18	仏語圏アフリカ地域研究 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	アフリカ地域研究ゼミ (2)	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	アフリカ地域研究ゼミ (2)	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア 地域研究 1 /アフリカ政治経済論	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開 発～	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア 地域研究 2 /アフリカ政治経済論	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開 発～	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人 類学 1 /アフリカ言語文化論	アフリカ女性の処遇について (1) — 土地の権利等に注目して	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人 類学 2 /アフリカ言語文化論	アフリカ女性の処遇について (2) — ウガンダの事例	秋
品川大輔	世界教養プログラム	地域言語 C(アフリカ諸語 1)/諸地域 言語 (スワヒリ語 1)	スワヒリ語中級 1	春
品川大輔	世界教養プログラム	地域言語 C(アフリカ諸語 2)/諸地域 言語 (スワヒリ語 2)	スワヒリ語中級 2	秋
品川大輔	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士研究：記述言語学	春

教員名	学部/研究科	授業科目	授業題目	学期
品川大輔	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	修士研究：記述言語学	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学1	バントゥ諸語系統内類型論の射程	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学2	バントゥ諸語系統内類型論の射程	秋
武内進一	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-7)/専攻言語(英語II-7)	アフリカの民主主義	秋
武内進一	国際社会学部	国際協力論 A(専門演習)	国際社会の思想と行動 A	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論 B(専門演習)	国際社会の思想と行動 B	秋
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	Contemporary African politics	春
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	development in International Relations	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 1	IDEAS 国際開発論講義(1) *3	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 2	IDEAS 国際開発論講義(2) *3	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 3	IDEAS 国際開発論講義(3) *3	秋
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	修士論文指導	春
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	修士論文指導	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー I	協働分野セミナーI	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	協働分野セミナーIII	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	協働分野セミナーIII	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	協働分野セミナーIV	秋
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋

* 1 ...JETRO 海外調査部が担当する日本貿易振興機構<JETRO>連携講座

* 2 ...南部アフリカ開発共同体(SADC)12か国の在京大使によるリレー講義

* 3 ...日本貿易振興機構アジア経済研究所(千葉市)で開講されるアイデアスの授業(2.2c参照)

b. 本学以外における非常勤講師活動

教員名	機関名	学部等	科目名	開講時期
石川博樹	青山学院大学	文学部史学科	東洋史特講	春
石川博樹	青山学院大学	文学部史学科	東洋史特講	秋
石川博樹	慶應義塾大学	全学部	歴史II	秋
荻谷康太	東京大学	文学部人文学科イスラム学専修課程	イスラム史概説	春
村橋勲	大阪大学	外国語学部	アフリカ社会論概説b	2021年1月22日
村津蘭	京都市立芸術大学	美術学部	映像論2	夏期集中
中川裕	東京言語研究所	理論言語学講座	理論言語学講座	前期
中山俊秀	明治大学	文学部	言語学	通年
中山俊秀	日本女子大学	文学部	言語コミュニケーション演習II	通年
中山俊秀	広島大学	教育学部	言語の比較と対照研究	夏期集中
大石高典	亜細亜大学	国際関係学部国際関係学科	アフリカ開発論	前期
椎野若菜	上智大学	総合グローバル学部	特講(アフリカの家族と親族)	秋学期

教員名	機関名	学部等	科目名	開講時期
品川大輔	国際基督教大学	教養学部アーツ・サイエンス学科	LG212 形態論	春学期
品川大輔	東京女子大学	現代教養学部人間科学科 言語科学専攻	4年次演習（言語科学）	通年
品川大輔	明治学院大学	言語文化研究所	スワヒリ語（読書会）	通年
武内進一	アジア経済研究所	IDEAS 研修プログラム	ゼミナール	2020年10月～ 2021年1月
武内進一	学習院女子大学	国際文化交流学部	「ルワンダの虐殺から考える」	2020年11月24日

5.3 対外活動、社会貢献

a. 外部機関からの委託業務

各センター員が外部機関より委託されて行っている業務は下記のとおりである。

教員・研究員名	機関名	役職名	期間	内容/備考
村橋勲	京都大学アフリカ地域研究資料センター	特任研究員（特任講師）	2020.4.1～2021.3.31	研究課題：北部ウガンダ-南スーダン国境地帯の社会経済的動態に関する研究——バラベク難民居住地とその周辺における経済（代表：村橋勲）
村橋勲	京都大学東南アジア地域研究研究所	共同研究員	2020.4.1～2021.3.31	研究課題：移民・難民の表象分析と多様なアクターによる映像実践—アジア・アフリカにおける比較研究（代表：王柳蘭）
村橋勲	国立民族学博物館	共同研究員	2020.4.1～2021.3.31	研究課題：モビリティと物質性の人類学（代表：古川不可知）
村橋勲	三祐コンサルタンツ	アドバイザー	2020.10.23～ 2020.12.3	南スーダン国における平和構築（地方行政）分野に係る情報収集・確認調査への応募申請に係るアドバイスを行う
村橋勲	日本ナイル・エチオピア学会	総務幹事、評議員	2020.4.19～2021.3.31	学会庶務を担当。学会運営に参加。
村津蘭	国立民族学博物館	共同研究員	2018.1～2021.3.31	研究課題：拡張された場における映像実験プロジェクト
村津蘭	成城大学民俗学研究所	研究協力者	2019.4.1～2021.3.31	研究課題：感覚と感性の民俗誌にかんする基礎的研究—『The Sacred Self』翻訳を通して考える—
中川裕	World Congress of African Linguistics	Steering committee member	2020～2028	同国際会議の企画・運営
中山俊秀	国立民族学博物館	共同研究員	2020.4.1～2021.3.31	言語に関する特別展示の企画協力
大石高典	日本アフリカ学会	関東支部運営幹事	2017.6～	関東支部の活動運営に参加する
大石高典	日本熱帯生態学会	庶務幹事	2018.4～	日本アフリカ学会との連携を担当
大石高典	帝京科学大学	附属フィールドミュージアム外部評価委員会・委員	2018.7～	フィールドミュージアムの運営について助言をおこなう
大石高典	国際森林研究機関連合（IUFRO）	Scientific Committee member, the African Forest Policies and Politics Conference (AFORPOLIS)	2018.9～	アフリカの森林に関する人文社会科学の科学委員
大石高典	生物多様性及び生態系サ	野生種の持続的利用に関する	2019.1～	政府間パネルの専門家としてアセスメントに参加し、報告書を執筆

教員・研究員名	機関名	役職名	期間	内容／備考
	ーピスに関する政府間科学-政策プラットフォーム(IPBES)	る評価報告書第一章主執筆者		する
大石高典	生き物文化誌学会	評議員	2019.7～	学会運営に参加
大石高典	生態人類学会	監事	2020.4～	学会活動の監査
大石高典	日本アフリカ学会	評議員	2020.4～	学会運営に参加
大石高典	日本文化人類学会	研究育成委員	2020.4～	若手研究者の育成を担当
椎野若菜	ナイル=エチオピア学会	評議員	2010～	
椎野若菜	比較家族史学会	理事	2011～	編集委員
椎野若菜	文化人類学会	理事	2020.4.1～2020.3.31	研究育成委員会委員長（匿名）、男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会委員長
椎野若菜	マケレレ大学	外部審査委員	2020.7～	
椎野若菜	国立民族学博物館	共同研究員	2020.10～	研究課題「月経をめぐる国際開発の影響の比較研究—ジェンダーおよび医療化の視点から」（代表：新本万里子）
武内進一	日本学術会議	連携会員	2017.10～2020.9	地域研究委員会地域研究基盤強化分科会副委員長
武内進一	Springer	Editorial Board	2020.4.1～	Evidence-Based Approaches to Peace and Conflict Studies Series の編集を行う
武内進一	京都大学アフリカ地域研究資料センター	編集委員	2020.4.1～	African Studies Monograph の編集を行う
武内進一	上智大学	外部評価委員	2018.4.1～2021.3.31	「『人間の安全保障』実現に取り組む国際的研究拠点大学としてのブランド形成」事業の評価を行う
武内進一	外務省	「ODA 評価調査」アドバイザー	2020.9.4～2021.3.31	対ルワンダ ODA 政策評価
武内進一	国立民族学博物館	共同研究員	2018.10～2022.3	研究課題：統治のフロンティア空間をめぐる人類学——国家・資本・住民の関係を考察する（研究代表者：佐川徹）

b. マスメディアからの取材、問い合わせへの対応

近年はマスメディアでアフリカ各国が取り上げられることも増えたため、テレビ制作会社や新聞社などからの取材、問い合わせも昨年度以降、急増している。アフリカ各地域の現地語翻訳業務への協力や裏取り調査への協力、基礎情報の提供など、可能なかぎりに対応している。

対応者名	媒体ジャンル	媒体名・番組名等	対応内容	備考
村橋勲	NPO メディア	ganas	ウガンダの難民政策に関する問い合わせに対して、Zoom でのインタビューを受ける	オンライン記事「ウガンダ政府の難民受け入れ政策『ReHoPE』に世界が注目！ 難民との共生なるか」(2020年8月23日投稿)、オンライン記事「ウガンダで暮らす南スーダンの難民は『自立できている』、UNHCR のこの主張は本当か」(2020年9月27日投稿)
中山俊秀	テレビ	NHK「チョコちゃんに叱られる」	「国によって言葉が違うのはなぜ」に関する取材・企画協力・助言・出演	2021年2月19日放送
大石高典	ラジオ	ラジオフューズ 87.4MHz	「ラジオでオープンキャンパス! : アフリカ地域専攻 × Femme Café」への出演	2020年7月25日オンエア
武内進一	新聞	朝日新聞	コメント「マリ軍大佐が副大統領就任」	2020年9月27日朝刊

5.4 外部資金の獲得

a. 代表者

代表者名	資金名	資金提供元	期間
出町一恵	科学研究費 若手研究「天然資源依存経済におけるマクロ経済と産業の推移に関する分析」(18K18248)	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2021.3.31
苅谷康太	科学研究費 基盤研究 (C)「初期ソコト・カリフ国における知と暴力：ジハードと奴隷制を支える思想の研究」(19K01030)	文部科学省・日本学術振興会	2019.4.1～2023.3.31
村橋勲	科学研究費 研究活動スタート支援「南スーダン難民による『家』の創造に関する人類学的研究」(20K22039)	文部科学省・日本学術振興会	2020.10.1～2022.3.31
村橋勲	Canon Foundation-Kyoto University Japan-Africa Exchange Program	Canon Foundation In Europe	2020.4.1～2022.3.31 (予定)

代表者名	資金名	資金提供元	期間
村橋勲	第8回若手難民研究者奨励賞	真如苑・真如育英会	2020.6.8～2021.5.31
村津蘭	科学研究費 研究活動スタート支援「感覚による信念の生成ーベナンにおける精霊マミワタを事例として」(20K22040)	文部科学省・日本学術振興会	2020.9.11～2022.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究(A)「言語音の多様性の外延の理解拡大：3基軸データによるカラハリ言語帯の音韻類型論」(20H00011)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1～2025.3.31
中川裕	科学研究費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「カラハリ・コエにおける言語と音楽の相互関係：クリックとポリリズム」(18KK0006)	文部科学省・日本学術振興会	2018.10.9～2023.3.31
中川裕	科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「音韻獲得の言語相対論の新展開：クリック子音獲得の事例研究」(18K18500)	文部科学省・日本学術振興会	2018.6.29～2021.3.31
中山俊秀	科学研究補助金 基盤研究(B)「言語喪失の動態の研究：沖永良部語若年層話者における言語消滅メカニズムの解明」(20H01257)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1～2023.03.31
中山俊秀	科学研究補助金 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「タイ少数民族における持続可能なコミュニティ協働型言語・文化ナレッジベースの構築」(20KK0007)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1～2022.03.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤研究(C)「カメルーンにおける定期市ネットワークの社会学的研究」(18H00776)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1～2021.3.31
椎野若菜	科学研究費 基盤研究(C)「東アフリカ都市におけるエリート・シングルとハウスガールの『同居家族』の研究」(17K02002)	文部科学省・日本学術振興会	2017.4.1～2021.3.31
品川大輔	科学研究費 基盤研究(C)「バントゥ諸語に見られる類型間連動関係の研究」(19K00568)	文部科学省・日本学術振興会	2019.4.1～2021.3.31
品川大輔	研究拠点形成事業：B. アジア・アフリカ学術基盤形成型「アフリカにおける言語多様性とダイナミズムに迫るアフリカ諸語研究ネットワークの構築」	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2020.3.31
品川大輔	二国間交流事業共同研究(ベルギー(フランダース)との共同研究)「バントゥ諸語の過去と現在：マイクロ類型論、歴史比較言語学、辞書学の統合による新展開」	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.1～2023.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究(B)「アフリカ農村部における資源管理と政治権力」(18H03439) ※ 学内分担者は大石高典、坂井真紀子	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2022.3.31
武内進一	科学研究費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「アフリカにおける農村資源管理と国家ーガーナとルワンダの比較研究」(19KK0031)	文部科学省・日本学術振興会	2019.10.7～2023.3.31

b. 分担金

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
石川博樹	科学研究費 基盤研究 (B)「アフリカ食文化研究の新展開：食料主権論のために」(18H03441)	文部科学省・日本学術振興会	藤本武 (富山大学)	2018.4.1～2022.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究(B)「空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究」(19H01264)	文部科学省・日本学術振興会	松本曜 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所)	2019.4.1～2023.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究(B)「研究職を離れた言語研究者が保持する言語データの適正再資源化のための基盤確立研究」(18H00661)	文部科学省・日本学術振興会	加藤重広 (北海道大学)	2018.4.1～2022.3.31
中山裕美	科学研究費 新学術領域研究(研究領域提案型)「国家と制度：固定化された関係性」	文部科学省・日本学術振興会	松永泰行 (東京外国語大学)	2016.6.30～2021.3.31
中山裕美	科学研究費 基盤研究 (A)「国際制度の衰微と再生の政治経済分析」(18H03623)	文部科学省・日本学術振興会	鈴木基史 (京都大学)	2018.4.1～2022.3.31
大石高典	科学研究費基盤研究 (B)「フィールドワークとフィールド実験によるホモルーデンス論の展開」(20H01409)	文部科学省・日本学術振興会	島田将喜 (帝京科学大学)	2020.4.1～2025.3.31
大石高典	科学研究費 新学術領域研究『トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築：多文化をつなぐ顔と身体表現(顔・身体学)』・計画研究 A01-P02「顔と身体表現の多文化比較フィールド実験研究」(17H06342)	文部科学省・日本学術振興会	高橋康介 (中京大学)	2017.7.1～2022.3.31
大石高典	科学研究費基盤研究 (B)「焼畑の在来知を活かした日本の食・森・地域の再生：地域特性に応じた生業モデルの構築」(16H03321)	文部科学省・日本学術振興会	鈴木玲治 (京都先端科学大学)	2016.4.1～2021.3.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤研究 (B)「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と『在来の技術革新史』への視角」(18H00776)	文部科学省・日本学術振興会	杉山祐子 (弘前大学)	2020.4.1～2021.3.31.
椎野若菜・品川大輔・武内進一	科学研究費 基盤研究 (S)「『アフリカ潜在力』と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究」(16H06318)	文部科学省・日本学術振興会	松田素二 (京都大学)	2016.4.1～2021.3.31
椎野若菜	科学研究費挑戦的研究(萌芽)「ケニアのスラムにおける映像民族誌及びデジタルアーカイブのメディアアートの拡張」(文部科学省・日本学術振興会	野口靖 (東京工芸大学)	2019.6.28～2022.3.31

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
品川大輔	科学研究費 基盤研究 (C)「A crosslinguistic study of prosody of particles: Japanese and Bantu languages」(20K00578)	文部科学省・日本学術振興会	李勝勳 (国際基督教大学)	2020.4.1~2023.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究(A)「持続的な平和と開発のためのガバナンス：ネットワーク科学とデータ科学を用いた研究」(18H03621)	文部科学省・日本学術振興会	阪本拓人 (東京大学)	2018.4.1~2022.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究(A)「民主主義体制における少数派排除のグローバル化—アジア・アフリカの比較研究」(18H03624)	文部科学省・日本学術振興会	中溝和弥 (京都大学)	2018.4.1~2022.3.31
武内進一	科学研究費 学術変革領域研究(A)「紛争影響地域における信頼・平和構築」(20H05829)	文部科学省・日本学術振興会	石井正子 (立教大学)	2020.11.19~2025.3.31